

第49回学習会を、平成25年11月8日(金)19:00~20:00福岡市教育センターにて行いましたので報告いたします。

## 第49回の内容

講師 重枝一郎先生

つながり学習のトータルデザイン

- 1 安心感をつくる意義
- 2 つながり学習のトータルデザイン
- 3 つながりに気づく段階
- 4 演習「聴く」
- 5 演習「宝さがし」



## つながり学習のトータルデザイン

### 1 安心感をつくる意義

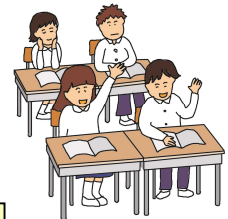
今、学校は非常に狭い範囲の中に、濃密な人間関係が存在しながら全体としては希薄な関係にある

**集団づくり = 誰とでも組める力**

異質な人とつながることが不可欠

つながり { 個が殺されるつながり  
個が活かされるつながり

この違いは、自分の意見をきいてもらえるか、安心感の違い



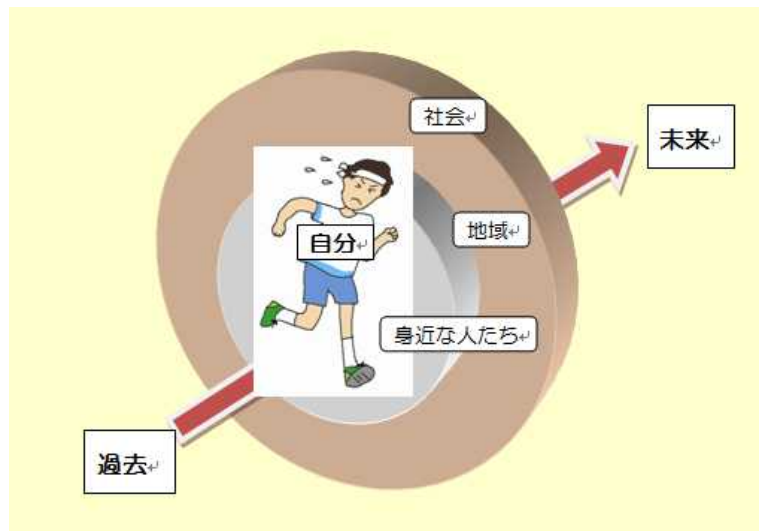
### 2 つながり学習のトータルデザイン

(1) 空間

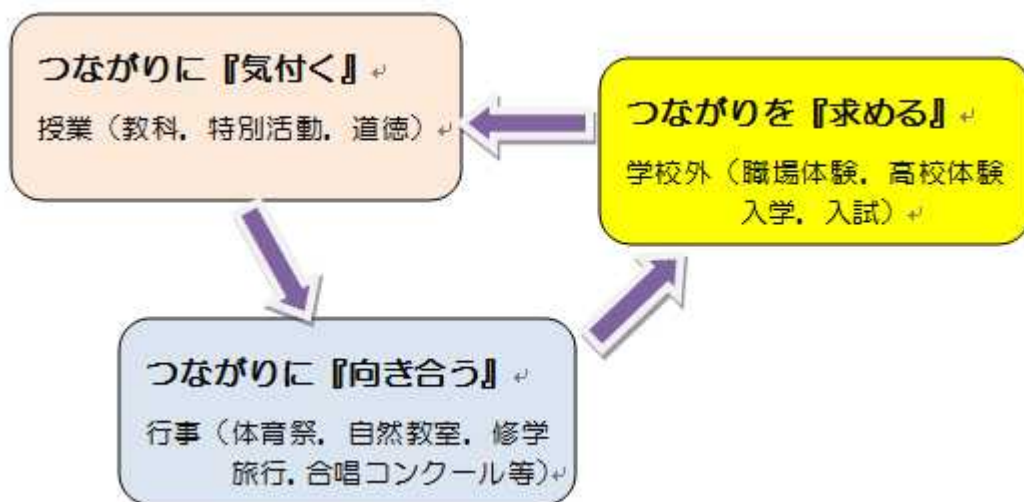
自分自身 身近な人 地域 社会

(2) 時

過去 未来



(3) 教育活動において



### 3 つながりに気づく段階

(1) グループになる意義

友だちの考えや行動をよく見て学ぼう  
友だちの目から見た自分に気づこう  
友だちと自分の行動・考え・感情の違いの比較から新しい気づきをしよう

(2) 役割について考えさせる

魅力のあるリーダー  
・誠実さ ・仕事を最後までやり遂げる ・ぐちっぽくない  
・あやまることができる ・みんなと遊べる

GWTの振り返り  
・アグレッシブ ・ムードメーカー ・ゲームメーカー

社会の中で自分を生かそうとする  
態度の育成

(3) キャリア教育

過去 今 (自分史)  
今 未来 ( 中生の主張 )  
職場体験

### 4 聴く

【ショートエクササイズ】

- ・バスの運転手
- ・「おはようございます」
- ・イメージボードトレーニング

【ロングエクササイズ】

- ・宝さがし



## 解説

### 教育は人なり

「班形態を生かした学級づくり」は、「班形態」にしさえすれば、望ましい学級になるわけではありません。そこに、教師の「人なり」や「アイデア」が必要になります。

「先生たちは考えてくれているな」と、子どもに感じさせることができるかどうかは、大きなポイントです。

「2学期は、誰とでも組める力をつける！！」

担任が、子供の心に響く「キーワード」で方向性を示します。

それが、合言葉になって、子どもたちの心に伝染していきます。

そんな「キーワード」を示せるかどうか・・・「人なり」です！

### トラブルがチャンス

人間関係は、トラブルを乗り越える過程で深まります。

学級で発生したトラブルに対応できる力をつけないと、荒れていきます。教師の力量が問われます。

意図的に、班のメンバーを数週間ごとに変えていくと、必ずトラブルが発生します。それが、チャンスです！子どもたちに「誰とでも組める力」をつけるチャンスです。

### 状況に応じた教師のリーダーシップ

1学期の教師のリーダーシップは、教示的、説明的に行い、インナールールを育てます。

2学期の教師のリーダーシップは、参加的にします。

子どもの輪の中に教師も入り、参加しながら、最終決定は子どもにさせて花をもたせます。集団活動をしたら、必ず振り返りをするようにして、プラスメッセージを交流します。また、タイミングよく、子どもたちに考えさせる場面をつくります。このクラスの状態は、本当にこれでいいの？学級目標に近付いているの？成長できているの？教師が問いかけます。

さらに、「誰とでも組める力をつけてほしい」という教師の願いを話し、チャレンジさせます。子どもに期待し、要求するのです。このような取組が、3学期につながります。3学期は、個々の子どもたちに、自分らしさや自分のよさに、強く気付かせていきます。

### 小さなこだわりを契約

最近の子どもたちは、以心伝心が苦手になってきています。教師が注意を繰り返しても、それがなかなか定着しません。

それよりも、「先生は見ていてくれる」「うまくいなくても、チャレンジしている自分を見守ってくれている」と、子どもに感じさせインナールールを築く方が、ルールの定着が望めます。

インナールールを育むのと同時に、教師の小さなこだわりを、学級に浸透させていきます。子どもと契約を結ぶのです。

例えば、教室環境です。立ったら必ずイスを入れる。イスや机の底に、綿ゴミをつけない。棚の中のかばんの向きをそろえる。そのような教師のこだわりを、さりげなく伝えます。時には、強い刺激を入れます。

床にひざまずいて、綿ゴミを手で取る教師の姿を見せたり、後ろの棚がよく見えるように、教室の前の方

に机を寄せさせて授業をしたり・・・それぞれの先生の持ち味で、刺激を入れます。「アウタールール」を「インナールール」に高めていくのです。

### 「うまくいかない」・・・子どもの実態に合っているか？

エンカウンターの授業をするときに、教師が気になる子どもの実態例として、敏感すぎる（声大きい、授業中によくしゃべる）、攻撃的（文句を言う）、授業や教師に向き合わない（のってこない）、おざなり（盛り上がらない、書く活動がいい加減）などがあります。このような実態がある場合は、きちんと活動しているグループを身近なモデルとして活用したり（褒めて全体で共有する）、導入の段階で子どもの感情に働きかける話をし、前向きに参加する意欲を高めたりすることが必要でしょう。しかしながら、確かな抵抗のあるクラスでは、エンカウンターはできません。担任として、1学期にどんなことをしているか・・・1年間の見通しをもって、何をしておくのか・・・エンカウンターをする前段として、しておくことがあります。それが、インナールールを育む取組です。

例えば、何かクラスで問題が起きたときには、みんなの問題として考えさせていますか？

1学期には、最低限のルールが守れる状態をつくっておきます。そして、本格的なルール作りをしていくのです。それも、子どもの実態や学級の様子を活用して、行うのです。

### 日常的に小さな成功体験をシェアリング

とってつけたように、1時間だけエンカウンターの授業をするよりも、日常的に小さな成功体験を積み重ねさせることの方が、有効だと思います。小さな成功体験を積み重ね、「ルールがあるから楽しかった」「ルールを守ったから感動した」という体験をクラスで共有します。感情にスイッチを入れます。

「成功体験」は、チャレンジの要素があることが重要です。たいして苦勞せずにはできたことは、成功体験にはなりません。苦勞を伴うことで、他者への感謝が生まれます。誰かの「いいところさがし」につながっていきます。

また、事前活動として、「応援メッセージ」を書かせるのも有効です。行事の前やチャレンジの前に「応援メッセージ」をもらうことは、感情にスイッチを入れます。

「応援メッセージをもらってどんな気持ちですか？」「こんな風に信じてくれているのを知って、どう思いましたか？」関係性を高めると、その後のチャレンジの結果の質が高まります。

「成功の循環」についての語りを入れると、意味を理解します。「関係性の質」が高まると「思考の質」が高まり、「行動の質」が高まり、「結果の質が高まる」という法則です。

中学3年生などの受験期には、受験は個人戦ではなく団体戦という意識をもたせます。そして、他者からのちょっとした励ましで、忍耐強さが継続されることを実感させます。他者からの勇気付けで、積極的になり、「合格」や「優勝」以上の満足感を得られることを教えます。「人は信頼する者からしか学ばない。先生とみんな、また、友だち同士の信頼関係は、日常の学びに大きく影響する」という、教師の語りを入れるのもいいと思います。

### 日常的にインナールールを高める

「朝の会」や「帰りの会」を活用して、日常的に子どもたちに意識させたいのが、「相手意識」です。これは、言い換えると、教師が意識することです。

相手意識では、3つの上手を意識させます。「あいさつ上手」「お礼上手」「うなずき上手」です。帰りの会などで、振り返りをさせると、意識が持続します。「ちょっとしたことだったけれど、さんにお礼を言われて気持ちがよかったです」「朝、イライラしていたけど、さんが明るくあいさつしてくれて、うなずきながら話を聴いてくれたので、うれしかったです」

このような交流をすると、友だち同士のインナールールが高まります。教師も、感動して子どもの話を聴くようにします。それが、教師と子どものインナールールを高めます。

### 「ルール意識」「見る意識」「共有意識」

「人とつきあうときのルール」「みんなと活動するときのルール」「集団生活のルール」3つのルールを、子どもに定着させるためには、教師が2本のアンテナを日常的にもち、子どもに伝えることです。2本のアンテナとは、「ルール遵守」と「ルール違反」を見逃さないアンテナです。

ルール遵守の子どもは見逃さずにほめて、クラスのモデルにします。小さなルール違反をした子どもも見逃さずに、端的に注意します。毅然とした態度で、短く的確な注意をします。それが、クラスに安心感をもたらします。教師への信頼感にもなります。

学級崩壊は、一部のルール違反をする子どもが原因で起きるものではありません。クラスの中で、まじめにルールを守っているような子どもたちが、担任を見捨てたときに起きるのです。教師がルール違反を見逃すことを、厳しい視線で見ている子どももいるのです。

このように、教師は2本のアンテナをもち、日常的に子どもの「感情」にスイッチを入れ、インナールールを高めめます。

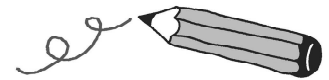
## 2つの間

一日の大半は授業なので、授業と日常的な取組を往復的に行うと、相乗効果があります。授業中にインナールールを高める取組も生徒指導もするのです。

子どもに知的な刺激を入れる場合は、教師に「待つ」姿勢が必要となります。子どもにじっくり考えさせる時間を確保するのです。

情的な刺激を入れるときは、つまり、感情に働きかける場合は、「すぐ」です。間髪入れずに、その場ですぐにほめます。そのタイミングを逃さないようにします。子どもの感情にプラスのスイッチを入れる場面は、学校生活の中でたくさんあります。意外に、先生たちは、それを流してしまい、アウトプットしていないのです。

学校は子どもにとって「生きる力」を育む場です。義務教育の中で学校に求められるのは、教科内容を教えるだけでなく、共生社会の担い手として生きる力を育むことです。



## 演習 「えんぴつ対談」

いわゆる「筆談」です。「えんぴつ対談」シートに話したいことを交互に書きます。ルールは、1人で長く書かないことです。テーマの設定によって、いろいろな場面で活用できます。

例えば、「体育祭を終えて」というテーマなら、「楽しかったね」「先輩の姿はさすがだったよね」「応援団の先輩の姿にあこがれるね」「私たちも先輩みたいになりたいね」等と、内容が焦点化されていきます。

夏休みの宿題についてなら、「1日1時間くらいは宿題をしなないとね」「うん、わかった。がんばってみる」等と、素直に書くペアがいます。それを全体に紹介すると、クラスに心地よい空気が生まれます。

ペアを変えたり、テーマを変えたりして、日常的に少しの時間を見つけてできる内容です。

誰かの問いかけに対して、アサーティブになる反応を見つけて、その振り返りをねらってクラスのルールにしていきます。ほめて感情交流を促し、インナールールを高めめます。

このように、教師が何をねらうのか？子どもにどんな語りをするのか？ここが勝負です。

子ども全員が100%できなくても、どこかにスイッチを入れたら、感情が伝染し、教室の空気になります。それをねらうのです。

ペアをどんどん入れ替えて、誰とでも組める力やまとまることへの抵抗感をな



## 演習 「背中合わせ向かい合わせ」

「誰とでも組める力」を育み、「クラスでまとまることへの抵抗感をなくす」活動として、「背中合わせ向かい合わせ」を紹介します。このような活動を通して、インナールールを育みます。活動することで、子どもの心にストンとおちることがあるのです。

話をするときの位置関係が、情報の伝達にどのように影響するかを考えさせます。正確さや早さはもちろんですが、気持ちが違います。そこに気付かせます。

背中合わせだと、相手の様子が見えないので不安になり、伝える声が自然と大きくなります。その不安な気持ちを実感させます。

このような演習を行うときには、教師の意図的な働きかけが重要です。体験活動は、どのくらいの時間させるのか、どのタイミングでストップをかけるのか、どのような刺激を入れるのか、教師は何を語るのか……。子どもに体験させれば、子どもが自分で学ぶだろうという子ども任せのスタンスは、教師の放任です。効果的な教育活動を進めるうえで、教師による意図的なリーダーシップは欠かせません。ここが、教師の勝負です！

この活動を通して、人と良好なコミュニケーションをとるときの「ルールづくり」をしたり、「声の大きさ」をテーマに話し合わせたり、教師が学ばせたい内容によって、様々な教育活動を仕組むことができます。

このようにして、子どもたちの、人づきあいへの不安をほぐしていきます。ただし、このような活動を1回したからといって、すぐに、効果があらわれるようなことはありません。日常的な教育活動との相乗効果と積み重ねによって、すこしずつ育まれるのだということを、教師は肝に銘じておく必要があります。

(※ワークシート例)

S	😊	S	😊	S	😊	S	😊	S	😊	テーマ (体育祭)	ペア名 (重)
もちろん！	逆立ちの練習、つきあって	*	*	*	*	*	*	*	*	でも、あんなの、できるか	先輩たちの組体操、かっこ
いっしょにが		*	*	*	*	*	*	*	*		

自分を表す印やマーク

☆えんぴつ対談は、活動が進むにつれ、テーマが焦点化され、自分の内面を見つめることができる。

☆自己理解や他者理解の場となる。

## 演習 「をよくする人」

「をよくする人」は、行事などの機会に、子ども自身に考えさせることができます。例えば、「合唱コンクールをよくする人」は、どんな考え方をする人でしょうか？どんな目をして見ますか？どんな聴き方をしますか？まず、個人で考えさせて、それを交流し、考えを広げ深め、学級全体でめざす姿を共有するのです。行事等の前に、望ましい行動や意味を考えさせておくのです。

「球技大会をよくする人」「学級をよくする人」「受験に合格する人」など、アレンジ可能です。

「受験に合格する人」について考えさせる場合は、「キラキラした目をしている人」というような、感覚的なことではなく、また、個人の努力というようなレベルではなく、「受験は団体戦」という意識がもてるように教師が導きます。友だちとの関係や教師との関係、学級の雰囲気や居心地の良さ、まわりからの励ましや応援の意味、それがどんな気持ちを生むのかなど、「意味」と「感情」に働きかけ、そのような「行動」を促すのです。

「学級をよくする担任」「授業をよくする先生」「学校をよくする先生」等にすれば、校内研修でも活用できます。

# 世の中をよくする人

名前 \_\_\_\_\_

どんな考えをする人ですか

手はどんなふうに使いますか

どんな目をしていますか

どんな聴き方をしますか

どんな言葉を使いますか

どんな心もちをしていますか

足はどんなふうにつかいますか



☆ほかにも自分なりに考えて記入してみよう。

## 「実際の人」をさがしてみよう

その人の名前	どんな人か	実際の様子
〇〇さん	①やさしく明るい心 ②役立つ手 ③積極的な足	毎朝、道の掃除をしてくれています。私が通ると笑顔であいさつをしてくれます。友達みたいになりました。

## 本日のキーワード

日常的に小さな成功体験をシェアリング  
 日常的に5つの意識でインナールールを高める  
 感情を共有し、余波を利用する

## 学習会に参加された先生方の感想 (参加人数 22名)

- ・今回、初めて参加しました。生徒が「語る場」を設定する必要性を実感しました。すでに49回も続いている「風土会」に、今まで参加する機会がなかったことを残念に思います。次回の参加に、今から意欲的です!! 楽しい学びの会をありがとうございます。
- ・初めて参加させていただきましたが、重枝先生のお話により、生徒のように夢中になって入り込み、「なるほど!」と思うことや、「これをやってみたらクラスの生徒も喜んで話を聞いてくれそうだな」という内容がたくさんでした。エンカウンターやショートエクササイズを、学校に戻って実践したいです(宝さがし、イメージボードトレーニング、バスの運転手さん等)。また、参加したいです。
- ・初めて参加させていただきました。重枝先生の実践に裏付けられた理論(基本的な考え)に、とても納得させられました。本校も来年度、集団づくりを柱にすえて、研究に着手したいと考えています。今後も学び続けたいと思います。

(初めて参加していただいた、若い先生と校長先生の感想です。  
 このように、若い先生から校長先生まで、一堂に会して学び合う「場」が「風土会」の存在意義なのだと、嬉しくなります! 「学び合う」関係は、しなやかで、のびやかで、みずみずしい! 自由さが広がります)

- ・「つながり」を意識させて日々の活動を見ていくことの大切さを学びました。  
今、まさに「誰とでも組める力」をつけていきたいと考えていたので、とても参考になりました。  
また、「聴く」というテーマで教えていただいた内容は、すぐに生徒たちに伝えたいヒントが、たくさんありました。今後の学級経営の見通しがもてました。
- ・つながりをもって学習することの大切さを学ばせていただきました。  
様々な場面で、自己や他者とつながりを築いていく大切さを、体験活動を通して、生徒に教えていきたいと  
思います。  
また、グループ活動をさせる際のテクニックなど、たいへん参考になりました。  
今まで自分が班活動をさせると、子どもたちの意欲が下がる時間帯があったので、今日、学んだことを忘れ  
ずに、実践したいと思います。
- ・今日の学習の中で、「聴く」についての演習が、たいへん参考になりました。さっそく、授業で使えるもの  
ばかりでしたので、来週、実践してみようと思いました。  
また、「その人の人間力」という言葉が、印象に残りました。  
同じ活動をするにも、それを教える側の人間力も必要だと、今、現場で実感していました。私にはまだ、足  
りていない部分があると思います。自分の中の言葉のひきだしをたくさんつくっていききたいです。
- ・いつも勉強になる話を、ありがとうございます。  
定義付け、考えさせ、GWT、振り返りという、その一連の流れは、いつも頭に入れ、指導に取り組んでい  
ます。  
今日、教えていただいた「つながり学習」・・・「気づく 向き合う 求める」のスパイラルもたいへん勉強  
になりました。来年からのクラス経営が楽しみでしかたありません！

(参加した先生方が、学校で、学級で、実践するのが楽しみになる「風土会」であり続けたいと思います！)